

県民提案型協働創出事業 中間報告書

令和6年8月20日現在

実施団体名	一般社団法人白神コミュニケーションズ		
取組事業名	白神エリアでのエコツアー開発とあきた白神認定ガイドの活用推進		
採択年度	令和5年度（2年目）	採択申込金額 （3年間）	3,300,000円
事業概要			
<p>1 地域課題と事業目的</p> <p>(1) 課題 世界自然遺産白神山地及び周辺部の環境保全と観光振興に資する目的で、県自然保護課が制定し、認定した【あきた白神認定ガイド】では、令和2年度までの3年間で40人の認定者を輩出し、現在は資格有効期間延長のための更新講習を行っている。 しかしながら、制度後のコロナ禍の影響もあり、実際のガイド経験やスキルアップの場が少なく、また、認知度や企画力・営業力が決定的に不足しているため、宝の持ち腐れ状態となっている。</p> <p>(2) 目的 with コロナとなった今後は、秋田県側白神山地での世界自然遺産と、隣接する世界文化遺産・伊勢堂岱遺跡などとも連携しつつ、秋田県北に位置する両世界遺産の特質を磨き上げ、世界遺産の意義や環境保全意識の醸成を盛り込んだ誘客促進と理解増進を目的とする。</p>			
<p>2 事業内容（課題解決の方法）</p> <p>「あきた白神認定ガイド」活用推進と、環境保全と観光の両立、さらには当地域ならではの世界自然遺産と世界文化遺産の関連性を踏まえ、次の事業に取り組む。</p> <p>(1) エコツアーの創造 従来のプログラムコンテンツや隣県との差別化</p> <p>(2) ガイドデスク設置 企画力、営業力、発信力を備えたガイドデスクの設置</p> <p>(3) あきた白神認定ガイドの活用機会増進</p>			
<p>3 実施スケジュール</p> <p><令和5年度></p> <p>11月：先進地比較調査実施（屋久島） 白神山地と共に世界自然遺産に登録された屋久島のガイド団体に対するガイド手法、営業・集客方法、フィールド開発や整備、エコツアープログラム開発等の実情を調査し、白神エリアと対比することで、今後の改善点を喫緊性や重要性についてあぶりだしを行い、今後の計画の指標とする。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>関係者ヒアリング</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>登山道整備状況調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>模範にしたい案内看板</p> </div> </div>			

- 12月：認定ガイド向け活動意識調査の実施
ガイド活動状況などについてのアンケートを実施
- 12月：ワーキンググループ開催（自然保護課協働事業）
あきた白神認定ガイド制度運営委員会
- 2月：上記を踏まえ、令和6年度以降の事業計画策定

<令和6年度>

- 4月～随時：白神山麓のアクティビティの可能性調査の実施
- 4月：認定ガイド向け研修会①開催（自然保護課協働事業）
日本赤十字社救急法救急員講習
- 5月：首都圏プロモーション①
東京京橋「あきたコアベース」にて、白神山地、五能線の写真パネル展示と共に
首都圏旅行会社向け及び個人向けにプロモーション



- 7月：ガイド用品整備
沢歩きガイドツアーに向け、ライフジャケットを整備。今後、冬のアクティビティのためのスノーシュー等を整備予定。
- 9月：認定ガイド向け研修会②開催（自然保護課事業協働）
野外でのファーストエイドに特化した講習会
- 11月：パンフレット作成
あきた白神認定ガイドのパンフレット及びウェブサイトの制作準備
- 11月：先進地ガイド研修（自然保護課協働事業）
屋久島フィールド&ガイド研修
- 11月：フィールド整備研修
留山の森フィールド整備研修
- 12月：首都圏プロモーション②（自然保護課及び誘客推進課事業協働）
首都圏の旅行会社へのプロモーション活動、及び東京品川「あきた美彩館」にて、
白神山地、五能線の写真パネル展示と共に旅行会社及び個人向けプロモーション

<令和7年度>

- 受皿機能強化（ガイドデスクの設置と運用）
- ガイドのスキルアップ研修

4 この事業で見込まれる成果

(1) 新規エコツーリズム 20 本造成

※エコツーリズムの基本理念を盛り込んだツアー商品

新規に多様な顧客に対応したエコツーリズム商品を企画し、弊社団の営業力を活かして、更に当面は弊社団がガイドの手配を行うといったワンストップ窓口機能を設営する。

また、やる気のあるガイドの育成強化としてさらに白神山地についての理解増進とガイディング能力のアップ、各ガイドの得意なエリアなどを考慮して活躍できる企画を提供することにより、ガイド自身の発信力も高まると考える。

(2) ガイド活用人数延べ60人（令和6～7年度）

エコリズムのガイドをはじめ、白神山地の保全推進として、世界自然遺産地域の巡視員として活躍する場を設けることで、観光振興と環境保全の両立に寄与することが期待できる。

(3) 誘客数約300人（令和6～7年度）

※量より質＝白神ファンを増やす＝発信者になってもらう

例えば、50人の大型バス1台で旅行客を迎えるより、5人のお客さんを10回迎えることにより、少人数で静かでゆったりとした白神山地本来の姿を堪能してもらえらる。

時間に追われるツアーではなく、時間を忘れて過ごす白神山地の森で体験した感動をSNS等で発信してもらい、ファンを増やすことにつなげる。

そのためにも、多種多様な旅行会社や個人客の需要に応えられるよう、(1)で計画するツアー商品を用意して様々な場や機会を通じて発信していくことで新たな客層の獲得に繋げる。

5 主な役割分担と協働

<実施団体>

一般社団法人 白神コミュニケーションズ

<行政(県)>

生活環境部自然保護課調整・自然環境チーム

観光文化スポーツ部誘客推進課

山本地域振興局地域企画課

<協働の取組>

各課発注による受託事業において、本事業の趣旨に沿った部分での協働

- ・あきた白神認定ガイドスキルアップ研修事業（自然保護課）
- ・白神体験塾2024企画運營業務（自然保護課）
- ・世界遺産を活用した誘客推進事業（誘客推進課）
- ・白神山地とブナ帯文化連携事業（山本地域振興局）

6 この事業の今後の課題と対応方法

(1) 課題

- ・各地域ガイド団体のガイドエリアやガイド料金の格差（低価格）、仕事量などにより、後継者への魅力不足が否めなかった。県認定ガイドにおいてもその機能が全く無かったため、それらを解消すべく計画を進めているが、今後は各ガイド団体との調整も課題となる。
- ・近い将来、世界遺産核心地域を自在に歩ける（需要があれば案内できる）巡視員やガイドが途絶えてしまう危機感に備える必要があるが、その人材確保や育成には課題が残る。

(2) 対応方法

- ・県認定ガイドのガイドフィールドとガイド対顧客人数の確定及びガイド料金体系の確立
- ・自然保護課との協働による遺産地域内での育成活動の事業化

(参考) 公開報告会における主な審査委員講評

- 冬のアクティビティについて、他の観光地とセットにしたツアーを旅行会社へ提案しているとのことで、今年は「秋田県冬の大型観光キャンペーン」が実施されるので、そういったものも活用しながら、幅広く事業を展開されることを期待しています。
- 団体と事業を依頼しているそれぞれの担当部局が一体となることで相乗効果が生まれる可能性があるとするれば、団体側から連携を働きかけて横展開していくことも選択肢のひとつとして良いのではないのかと感じました。
- 本事業の補助を受けたことで、各取組バラバラだったものの連携が強化され、事業展開できたのは非常に良かったと思います。今後、エコツアーの実施など、計画を前に進めて、さらなる成果が出てくることを期待しています。